



社会福祉法人

恩賜財団

済生会川内病院

病 院 の ご 案 内

私たちは、保健・医療・福祉を通じて
地域社会に貢献します。





社会福祉法人 恩賜財団 済生会川内病院
院長 嵯山 敏男

ごあいさつ

済生会川内病院は、昭和 23 年、内科・小児科の 1 床の診療所として誕生しました。70 年を経た現在も、分け隔てなく人々の生を濟す「済生の精神」が受け継がれています。地域の皆様が安心して暮らせるよう、地域の医療機関と連携しながら、各科の専門医療をはじめ、救急医療、小児・周産期医療、がん医療、災害・被ばく医療、予防医療、および無料・低額診療事業に力を注いできました。済生会川内病院はこれからも地域の方々の声に耳を傾け、最新の良質で安全な医療を提供し、地域社会に貢献してまいります。

理 念

私たちは、保健・医療・福祉を通じて地域社会に貢献します。

基 本 方 針

1. 患者様の尊厳と権利を常に尊重します。
2. 医療情報の開示と懇切な説明による開かれた医療を実践します。
3. 私達は常に研鑽し、患者様本位の、良質で安全な医療を目指します。
4. 公的中核病院として、地域の先生方と協力し、救急医療と高度の専門医療の推進に努めます。
5. 職員の協調と信頼によって、チーム医療の充実に努め、働きがいのある職場を作ります。

概 要

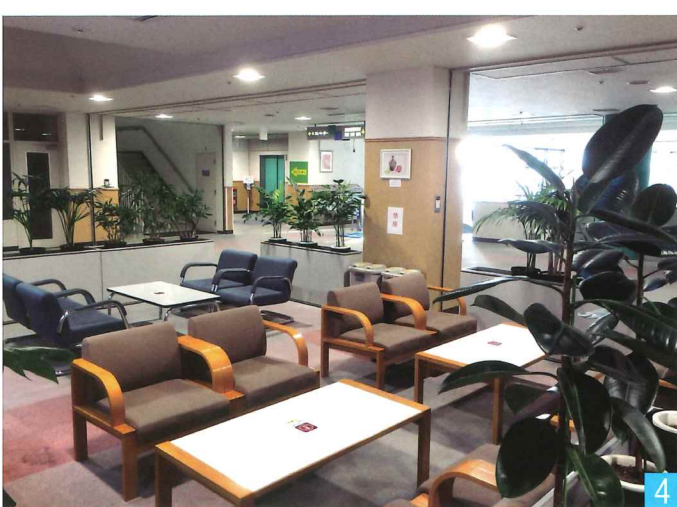
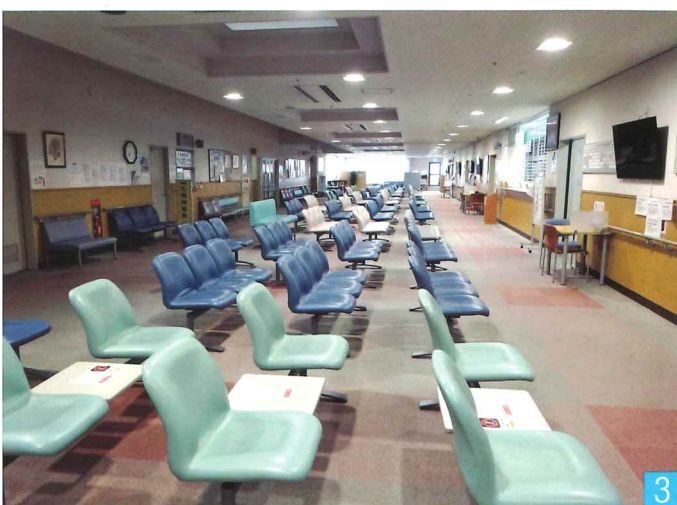
名 称	社会福祉法人 恩賜財団 済生会川内病院
住 所	〒 895-0074 鹿児島県薩摩川内市原田町2番46号
敷 地 面 積	25,430.47㎡
建築延面積	23,721.12㎡
病 床 数	一般 244床
主な施設認定	救急告示病院、地域周産期母子医療センター 地域がん診療連携拠点病院、災害拠点病院 へき地医療拠点病院、エイズ治療協力病院
併 設 施 設	訪問看護ステーションせんだい 居宅介護支援事業所せんだい 訪問介護ステーションせんだい 二次被ばく医療施設 なでしこ保育園

当院の役割と診療の柱



沿 革

昭和 23 年 11 月 (1948 年)	川内市大小路町709番地に済生会川内診療所開設 診療科：内科、小児科、病床数 1 床 職 員：医師 1 名、看護師 1 名	平成 8 年 5 月	皮膚科設置
昭和 32 年 3 月	呼吸器科設置(18 床)	平成 9 年 3 月	災害拠点病院指定
昭和 36 年 9 月	病院に昇格(40 床)	平成 9 年 6 月	訪問看護ステーションせんだい事業開始
昭和 41 年 6 月	現在の地(川内市中郷町 2122 番地)に新病院開設 (内科、外科、整形外科、産婦人科：一般 100床、結核 34 床)	平成 12 年 2 月	二次被ばく医療機関指定
昭和 42 年 2 月	放射線科設置	平成 12 年 2 月	居宅介護支援事業所せんだい事業開始
昭和 52 年 4 月	小児科設置	平成 12 年 5 月	訪問看護ステーションせんだい事業開始
昭和 54 年 8 月	眼科設置、20 床増床し 154 床となる	平成 14 年 7 月	へき地医療拠点病院指定
昭和 54 年 10 月	救急病院指定	平成 15 年 2 月	結核病床廃止(10 床)
昭和 56 年 11 月	病院増改築工事完成	平成 17 年 5 月	小児外科設置
昭和 59 年 2 月	病床種別変更を行い、一般病床 144 床、結核 10 床となる	平成 20 年 2 月	地域がん診療連携拠点病院指定
昭和 62 年 9 月	増床により一般 170 床、結核 10 床となる	平成 21 年 3 月	地域周産期母子医療センター指定
昭和 63 年 4 月	病院増改築工事完成(5 月より一般 244 床、結核 10 床)	平成 23 年 3 月	東日本大震災被災地へ災害医療チーム(JMAT)派遣
平成 8 年 4 月	新病院完成、泌尿器科、麻酔科設置	平成 26 年 2 月	鹿児島県災害派遣医療チーム(DMAT)指定
		平成 28 年 2 月	原子力災害対策屋内避難施設完成
		平成 28 年 4 月	熊本地震被災地へ DMAT 派遣
		平成 30 年 4 月	病院内保育施設「なでしこ保育園」開園



外来

専門性の高い診療と充実した検査で
北薩地区の急性期医療を担います

済生会川内病院では、各科に専門医を配置し、地域の「かかりつけ医」からご紹介いただいた患者さんを中心に、高度で専門的な医療を提供できるように努めています。高画質の画像診断装置、病理診断科を備えており、安心して診断・治療を受けることができます。

痛みに対するペインクリニック、がんなどに伴って起きる心や体の辛い症状をやわらげる緩和ケア外来も開設しています。

また、救急告示病院として一刻を争う救急患者に専門スタッフが対応します。年間 1,000 件以上の救急患者を受け入れています。

- 1 吹き抜けで明るく開放的な総合待合ホール
- 2 広々とした外来待合
- 3 談話室で待ち時間もリラックスして過ごせます



最新の高度医療機器

正確な診断に寄与する最新鋭の画像診断機器や治療装置を含めて高度医療機器を揃えています。CT 装置は 320 列面検出器を搭載しており、被ばくを低減しつつ、短時間の撮影で高画質の撮像が可能です。MRI 装置も従来の 1/10 まで騒音を抑えた最新鋭の装置を導入しています。



320 列エリアディテクター CT

1.5 テスラ MRI

腎センター・ME 室

腎センターでは、末期腎不全に対する血液透析や腹膜透析を行っています。また、各種アフェレーシス治療（血漿交換療法、白血球除去療法等）や、腹水濃縮還元などにも対応しています。

隣接する ME 室では、臨床工学技士 (ME) が透析装置を始め、院内医療機器の保守・点検・管理を行っており、安全な医療提供に寄与しています。



病理診断科

北薩地区で唯一病理診断科を有しています。病変から採取した組織を顕微鏡で観察し、悪性腫瘍か良性の病変か、病気の原因は何かなどを院内で診断することが可能です。



診療科

内科

- 一般内科 ● 糖尿病内科 ● 循環器内科
- 腎臓内科 ● 消化器内科 ● 呼吸器内科
- 肝臓内科（再診のみ） ● 血液内科

- 小児科 ● 産婦人科 ● 外科・消化器外科 ● 小児外科
- 整形外科（再診のみ） ● 泌尿器科・小児泌尿器科 ● 皮膚科
- 眼科 ● 放射線科 ● ペインクリニック ● 緩和ケア外来

● は非常勤医師
診療日程は診療科により異なります。病院ホームページでご確認ください。

予約・お問い合わせ ☎ 0996-23-5221 (代表)
月～金曜日 内科・産婦人科・皮膚科：14:00～17:00
小児科：15:00～17:00
その他：13:00～17:00





病棟

安心して入院治療が受けられるよう
良質な看護体制を提供します

入院患者さんが安心して検査・治療に専念していただけるよう、優しさとおもいやりの心で患者さんに寄り添い、患者さんの意思を尊重した看護の実践に取り組んでいます。より安心・安全で質の高い看護を提供するために、2人の看護師で患者さんを受け持つ PNS（パートナーシップ・ナーシングシステム）を取り入れ、現在2病棟が実施しています。また、移動式カートによる電子カルテ入力システムを導入し、病棟内での迅速な情報伝達を実現しました。入院患者さんのベッドサイドケアの向上に寄与しています。

3階から5階の東病棟、西病棟には眺めのよいデイルームを設置しています。東西病棟をつなぐ廊下にも談話コーナーを設けており、ご面会の方とゆっくりお過ごしいただけます。



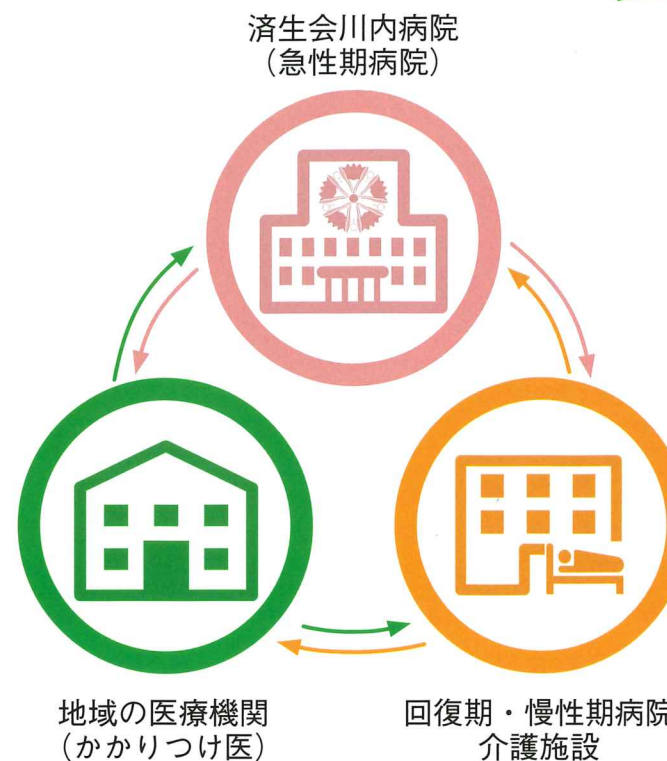
- 1 オープンタイプのナースステーション
- 2 病室（個室）
- 3 病棟回診風景
- 4 デイルーム
- 5 廊下に設置された談話コーナー



リハビリテーション室

早期の日常生活への復帰に向け、個々の患者さんの状態に応じた質の高いリハビリテーションを設定します。生活するうえで基本的な動作を効率的に行う練習（理学療法）、食事、排泄、更衣動作などに対応する練習（作業療法）を専門スタッフが提供しています。

医療連携



地域の医療機関と緊密な連携を取り、
患者さんにとって最適の医療を継続します

済生会川内病院は地域の中核病院として、緊急・重症な状態にある患者さんに対する急性期医療、救急医療の役割を担っています。

急性期の治療が無事に終わり、自宅に退院される際にはお近くの医療機関の医師（かかりつけ医）と十分な情報共有を行います。また、介護保険など、在宅支援サービス介入のご提案をいたします。

引き続き入院治療が必要な場合には、回復期・慢性期を担う医療機関と連携し、より最適な医療を継続していきます。医療連携室では、地域の保健・医療・福祉機関との密な連携により、患者さんに安心していただける退院支援を行っています。

訪問看護ステーションせんだい
居宅介護支援事業所せんだい
訪問介護ステーションせんだい
訪問介護ステーションせんだい（障害）

住み慣れた家で、より快適な療養生活を送れるよう、看護師がご家庭に訪問し、療養の相談や医療的ケアを行います。乳幼児から高齢者まで全ての方を、24時間体制で支援します。また、患者さんだけでなく、支えているご家族の方もサポート致します。



医療連携室

患者さんが安心して治療を受けられるように、地域のかかりつけ医や高度専門医療機関とのパイプ役となり、紹介や入退院がスムーズに行われるよう支援しています。



認定病院

県北の拠点病院としての役割を果たすため、多数の施設認定を受けています



地域における中核病院として地域医療機関と連携し、質の高いがん診療を提供

● 地域がん診療連携拠点病院

地域医療機関と連携しながら、がんの診断、治療（手術、放射線治療、化学療法）、緩和ケア、がんリハビリテーションに取り組んでいます。病理診断科、放射線治療専門医、がん放射線療法看護認定看護師、緩和ケア認定看護師、がん化学療法看護認定看護師、皮膚・排泄ケア認定看護師など、がん専門スタッフがそろっています。また、地域のがん患者さんやご家族の気持ちに寄り添えるよう、がん相談支援センターを設置し、患者・家族会「花みずき会」も定期的に開催しています。



1 腹腔鏡手術

外科・消化器外科、泌尿器科・小児泌尿器科、産婦人科、小児外科では、根治性、安全性、術後の生活、低侵襲、整容性に優れた腹腔鏡手術を導入しています。

2 放射線治療システム

4D コーンビーム CT を搭載し、がん病巣に対し正確に照射を行うことができるため、人に優しい放射線治療ができます。

3 外来化学療法室

日常生活に出来るかぎり支障を来たさずに、化学療法が受けられるよう配慮しています。

4 内視鏡治療

胆膵内視鏡治療の実績は県内有数です。また、早期の食道癌、胃癌、大腸癌に対する内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）を積極的に行っています。



北薩地区で唯一、周産期の救急医療に対応し安心して子供を産み育てられる地域づくりに貢献

● 地域周産期母子医療センター

産婦人科医療機関が減少していく中、幅広く周産期医療を展開し、北薩地区で唯一周産期の救急医療に対応できる病院です。産婦人科、小児科、小児外科、その他の関連各科の医師・スタッフが緊密な連携をとることにより、安心して子供を産み育てられる地域づくりに貢献しています。

よりハイリスクの出産や、重症で当院での管理が困難な場合は、ドクターヘリやこのとり号（新生児専用高規格救急車）などで鹿児島大学病院、または鹿児島市立病院へ迅速に搬送します。



5 小児科医師による新生児診察

新生児健診を週3回（月・水・金）、1ヶ月健診を週1回（月）行っています。

6 助産師外来（つくしんぼ外来）

助産師外来では超音波エコー、保健指導、乳房ケア等を行っています。

7 産婦人科病棟

小児科、各診療科との密な連携により、合併症妊娠、ハイリスク妊娠など24時間体制で厳重に管理しています。



災害から人々を守る使命を果たすため 定期的な訓練を実施

● 災害拠点病院・二次被ばく医療機関

消防署と協力し定期的な大規模災害訓練を実施しています。平成26年にはDMAT（災害派遣医療チーム）を結成、平成30年には2チーム目のDMATを編成しました。また、大規模災害により水や電気の供給がストップしても診療が継続できるよう、井水浄化設備や非常用発電機を装備しています。さらに、原子力発電所内の被ばく事故に備えた訓練を定期的に行い、原子力災害時に避難できない重症入院患者用の屋内退避施設も設置しています。



1 大規模災害訓練

消防局職員、患者役の学生さんなどの協力をいただき、負傷者受け入れ、患者搬送の大きな訓練を定期的に行っています。

2 DMAT（災害派遣医療チーム）

DMATは医師、看護師、業務調整員で構成され、災害の急性期（おおむね48時間以内）に活動できるよう専門的な訓練を受けています。

3 屋内退避施設の放射線ろ過フィルター

放射線をろ過した空気により室内気圧を高め、汚染空気が屋内に入らないようになっています。

4 被ばく医療訓練

原子力発電所内の被ばく汚染傷病者の受け入れ、及び患者搬送の訓練を定期的に行っています。



すべての人に平等に保健・医療・福祉を 受けられる機会を提供

● へき地医療拠点病院

2ヶ所の川内地域診療所（湯田診療所、久見崎診療所）へ訪問診療を行ってきました。また、甑島の診療所からの医師派遣要請に対応しています。

さらに、経済的に困窮したり社会的に孤立している方に対して、無料・低額診療事業、生活困窮者支援事業（なでしこプラン）を実施しています。



5 久見崎診療所

6 更生保護施設「草牟田寮」での健康教室

7 知的障害児通院施設「つくし園」施設職員への教育

無料・低額診療事業

済生会の出発点である「施薬救療」の精神を引き継ぎ、当院では社会福祉法に基づいて経済的な理由により必要な医療を受ける機会が制限されることのないよう、診療費の自己負担を軽減する無料・低額診療事業を実施しています。

生活困窮者支援事業（なでしこプラン）

平成22年度からは、経済的な生活困窮者だけではなく、刑務所からの出所者の社会復帰を支援するなど、院外でも積極的に生活困窮者支援事業に取り組んでいます。

- 更生保護施設「草牟田寮」を訪問し、入所者に対し健康教室・健康相談・健康診断・インフルエンザの予防接種を実施。
- 知的障害児通院施設「つくし園」の施設利用者の保護者に対して訪問相談を行うほか、施設職員に対して教育・研修を実施。
- 養護学校児童の在宅生活に関する指導や評価、保護者に対する相談を実施。



予防医療

「最良の治療は予防」
健診で地域の皆様の健康を守ります

生活習慣病、がんの予防・早期発見は地域住民の健康を守り、医療費の抑制にもつながります。健診事業（生活習慣病、人間ドック、健診）の推進に努めています。

人間ドックのご案内

● 1 日ドック

▶実施日・・・月～金曜日（祝祭日を除く）

● 1 泊 2 日ドック（糖コース）※糖尿病治療中の方は実施できません。

▶実施日・・・月～木曜日（祝祭日を除く）

● 1 泊 2 日ドック（大腸コース）

- ・当院では大腸内視鏡検査は75歳以下の方を対象としています。
- ・ポリープ切除は出来ません。（観察・生検まで）
- ・泌尿器科や産婦人科で手術、又は悪性腫瘍で広範囲の手術をされた既往のある方は内視鏡検査が難しい場合もありますので、お問い合わせ下さい。

▶実施日・・・月～木曜日（祝祭日を除く）

※ 1 泊 2 日ドックの宿泊先はホテルになります。

病院⇄ホテル間はタクシーにて送迎致します。

オプション検査

- | | | |
|-----------|------------|-------------|
| A. 腫瘍マーカー | B. ピロリ抗体検査 | C. マンモグラフィー |
| D. 骨密度検査 | E. 血圧脈波検査 | F. 頸動脈エコー |

検査結果について

内科・外科・婦人科・放射線科・眼科の専門医が診断します。
2～3週間後に、検査結果や指導事項をまとめた人間ドック成績書をご本人宛に郵送致します。

上部消化管検査について

上部消化管検査は原則内視鏡検査（胃カメラ）となります。場合により、内視鏡検査が出来ない方は上部消化管X線検査（バリウムによる検査）に変更出来る場合があります（事前連絡が必要です）。

昼食について

昼食を準備しています。アレルギーのある方は当日お知らせ下さい。
※大腸コースの方は検査食になります（ホテルの夕食も検査食です）。

ご予約

☎ 0996-23-5221（代表）

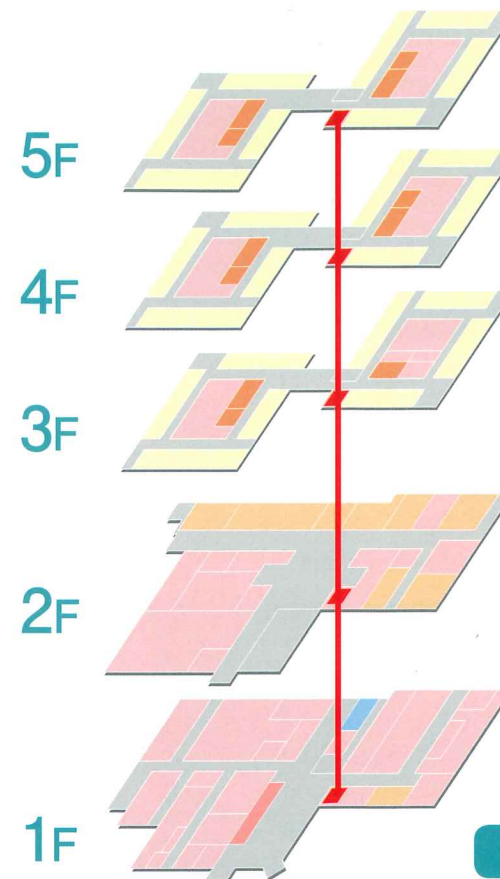
☎ 0996-22-8921（直通）

月～金曜日 8:30～16:00、土曜日 8:30～12:00

健診センター



フロアガイド



- 1 受付・薬局・お支払い・計算
相談コーナー・ドック健診受付
 - 2 総合案内
 - 3 自動再来受付機
 - 4 リハビリテーション室
 - 5 レストラン・売店
 - 6 夜間受付
- エスカレーター
 - エレベーター
 - 公衆電話
 - 車イストイレ
 - お手洗い
 - おむつ交換台
 - ナースステーション
 - 非常口



西病棟／東病棟



外来／健診センター／腎センター



総合待合／救急処置室／放射線科

部門紹介



看護部

患者さんとそのご家族の思いを尊重した優しさと思いやりのある看護の実践に心がけています。地域の皆様のニーズに応じた入院から退院、そして在宅まで関係職種と協働した切れ目のない看護の提供に努めています。



検査部

検査部では、患者さんから採取した血液や尿などを用いて検査を行う「検体検査」と、直接患者さんに接して検査を行う「生理機能検査」を実施しています。『正確な検査データと迅速な対応』を目標に取り組み、24時間365日いつでも緊急検査に対応可能な体制で業務を行っています。



放射線部

一般撮影、透視、CT、MRI、核医学（SPECT）などの各種画像検査と放射線治療（リニアック）の業務を行っている部門です。医療において放射線が有効かつ安全に利用されるよう放射線管理も行っています。



薬剤部

患者さんへの処方薬剤について丁寧な説明を心がけています。また、医師の診療支援 および看護師等との連携を行いながら、間違いのない調剤・分かりやすい服薬指導を目指しています。



栄養科

チーム医療のメンバーとして、患者様に寄りそう栄養管理を目指しています。また、安心・安全・美味しく喜ばれる食事づくり、治療のサポートとしての食事づくりを心がけています。栄養相談では、生活習慣やご自宅での食事状況についてご相談し、治療の継続に繋がるようにサポートしていきます。



医事管理課

受付窓口で精算・会計を行う外来医事業務、入退院の手続きおよび入院診療費の算定・請求を行う入院医事業務などを行っています。

臨床研修協力病院

当院は鹿児島大学病院臨床研修プログラムの研修協力病院となっており、積極的に臨床研修医を受け入れています。救急医療や各科の専門医療とともに、大学病院では経験することが少ないプライマリ・ケアの基本的診療能力の習得が可能です。

看護師教育システム

豊かな人間性と専門性の高い知識・技術を身につけ、主体的に看護を実践できる看護職員を育成することを教育理念に掲げ、クリニカルラダーと連動したキャリア開発支援を行っています。入職時から1年間、先輩看護師（プリセプター）が、マンツーマンで責任を持ち新人看護師（プリセプティー）の指導を行います。さらに安心した環境で一人一人が着実にステップアップできるように、きめ細やかな体制を提供しています。

病院内保育施設「なでしこ保育園」

職員や地域の方が仕事と育児を両立し、安心して仕事に取り組める環境づくりのため、「なでしこ保育園」を開設しています。病児保育室も併設しており、お子様の急な体調変化にも対応できます。



済生会のあゆみ

明治44年2月11日、明治天皇は桂太郎内閣総理大臣を御前に召され、「生活苦で医療を受けることができずに困っている人たちを施薬救療（無償での治療）によって救おう」との「済生勅語」とともに、お手元金150万円を下賜されました。これをもとに、同年5月30日、恩賜財団済生会が創立されました。以来、創立の精神を引き継ぎ、保健・医療・福祉の充実と発展に取り組んでいます。

なでしこ紋章の由来

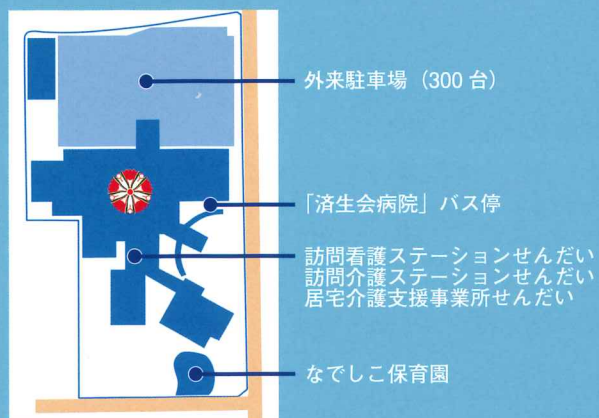


露にふす 末野の小草 いかにぞと
あさ夕かかる わがころかな

野の果てで、露に打たれてしおれるナデシコのように、生活に困窮し、社会の片隅で病んで伏している人はいないだろうか、いつも気にかかってしかたがない

明治45年、初代総裁・伏見宮貞愛親王は、済生会事業の精神を野に咲く撫子に託してお詠みになられました。これにちなみ、いつの世にもその御心を忘れないようにと、撫子の花に露をあしらったものが、大正元年から済生会の紋章となっています。

ACCESS



JR 川内駅から



バス：くるくるバス、鹿児島交通、南国バスで「済生会病院」下車



タクシー：約 10 分



社会福祉法人
恩賜財団 済生会川内病院

〒 895-0074 鹿児島県薩摩川内市原田町 2 番 46 号
TEL : 0996-23-5221 FAX : 0996-23-9797
<http://saiseikai-sendai.jp/>

